

令和7年度 第2回 湖西市地域公共交通会議 会議録

日 時：令和7年9月16日（火） 10時00分～11時30分

場 所：湖西市役所防災センター2階

出席者：委員13人＋事務局4人

会長	片山 彰宏	湖西市 副市長
副会長	匂坂 隆弘	湖西市 都市整備部長
座長	杉木 直	豊橋技術科学大学 教授
委員	大久保 公雄	浜松バス株式会社 代表取締役社長
委員	服部 光真	遠鉄タクシー株式会社 運行営業部長
委員	山岡 広幸（欠席）	天竜浜名湖鉄道株式会社 常務取締役
委員	中山 國光	（社）静岡県バス協会 専務理事
委員	八木 雅子 （代理：平岩 成美）	中部運輸局 静岡運輸支局 首席運輸企画専門官
委員	新垣 賀規	遠鉄タクシー(株) 労働組合 執行委員長
委員	片山 広文 （代理：山本 あす香）	静岡県 交通基盤部 地域交通課長
委員	澤口 奨則 （代理：狩野 恭朗）	静岡県 浜松土木事務所 維持管理課長
委員	森田 克巳 （代理：鈴木 崇太）	静岡県湖西警察署 交通課長
委員	彦坂 昇	湖西市自治会連合会 会長
委員	石田 明正（欠席）	湖西市老人クラブ連合会 会長
委員	森 宣雄	湖西市社会福祉協議会 会長
事務局	片山 徳二	湖西市都市整備部 都市計画課長
事務局	山下 祐介	湖西市都市整備部 都市計画課 係長
事務局	榊原 徹	湖西市都市整備部 都市計画課 主査
事務局	中村 優	湖西市都市整備部 都市計画課 主任

資料No.	議事次第
1、2	湖西市地域公共交通計画（現計画）の進捗管理及び改定について
3	湖西市企業シャトル BaaS 事業について
4	遠鉄タクシー(株)浜松南営業所湖西車庫の乗合事業車庫収容能力の拡大について
5	コーちゃんタクシーの実証運行前の共有について

1 開会

2 会長挨拶

本日はお忙しい中、湖西市地域公共交通会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。

委員の皆様におかれましては、日頃から市の公共交通行政に対しご理解・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本日は、現行の地域公共交通計画の評価、湖西市企業シャトル BaaS などについての協議事項が 3 件、次期計画の骨子案についての討議事項が 1 件、コーちゃんタクシーの実証前の状況についての報告事項が 1 件ございます。

コーちゃんタクシーの実証運行については市長の肝入り施策の一つでございまして、先般行われたイベントの市長挨拶においても、市民の皆様に対して、本件の実現に向けて着々と準備を進めていることについて言及されておりました。

委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、今後の本市の地域公共交通の改善に活かしていきたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願い致します。

3 協議・討議事項

（1）湖西市地域公共交通計画（現計画）の進捗管理及び改定について

※現計画の進捗管理については「協議」、計画の改定については「討議」

<事務局>

- 資料説明（資料 1、2）

<勾坂委員>

- 年代別満足度について、16 歳～39 歳までと 40 歳以上で、「満足」と「やや満足」を合わせた回答割合に差が出ている。ライフスタイルの変化など、どのような要因が考えられるか。

<事務局>

- ご指摘の通り 40 代以上の満足度が下がっているが、30 代以下と 40 代以上での落差のはっきりとした要因は掴めていないのが正直なところ。あくまで推察であるが、40 代以降のライフスタイルの変化として、親が車を手放し、親の介護や送迎の必要性が出てくる方々がこの年代には多いと考えており、自身は車を運転できて不自由していなくても、親の移動を考えた時に公共交通が不

便であると感じる方が増えるのではないかと思料する。

<座長>

- 40代から満足度が下がっているのは、親世代のことを考え始める年代であるということが大きな要因であると思う。現在、公共交通の改善に向けた住民アンケートを実施しているところなので、その回答結果も見ながら、こういったところが不満なのか要因を分析していけばいいのではないかな。

<彦坂委員>

- 現計画の評価について、70歳以上の市民の満足度の目標値が67%に対して、実績が29.3%とかなりかけ離れている。一方、個別事業のほとんどの評価が○で、コーちゃんタクシーの全域化だけが△である。ということは仮にコーちゃんタクシーの△が○になっても、目標に対して半分行くかどうかにはかならないのではないかな。今回の見直しにあたっては根本的に取り組みをどうするか再考しないと、目標に対して実績がかけ離れたままになっていく可能性が非常に高いと思料する。参考資料で各年代別の満足度などの結果が出ているが、公共交通機関に対して期待度が高いのはやはり交通難民であり、交通が不便な地域の人たちや車の運転ができない人たちの満足度をどのように上げていくかが重要である。市内では特に北部地区と白須賀地区の70歳以上の方の満足度が低いところを改善していく必要がある。こうした結果がでてきているのであれば、無作為なアンケートではなく、北部地区や白須賀地区の70歳以上の方に限定して、何が不満なのか、現状に対してどうすることによって不満度を下げられるかといったコミュニケーションをとることが満足度を上げていくための一つの近道であると考ええる。

<事務局>

- 次期計画の目標値の設定にあたっては、もう少し現実的な設定の仕方を検討したい。また、各地域の高齢者の方々とは、周知活動の場で直接コミュニケーションをとるようにしたい。

<森委員>

- 市民一人あたりの公共交通の利用回数について、数字が伸びていることは良いことだが、その内訳は同じ方が何回も利用することで増えているのか、あるいは新たな利用者が増えてきているのかどちらか。

<事務局>

- コーちゃんタクシーに関しては実利用者数がとれており、まだまだ少ないが、運行エリアの拡大によって実利用者が増えてきている。コーちゃんバスについては基本的にリピーターが多いが、昨年の改正で、浜名特別支援学校の生徒の新規利用が増えるといったこともあった。

<彦坂委員>

- 体系図の「階層下げ」とは、いままでよりも施策の重要度を下げることか？

<事務局>

- 施策の重要度を下げるわけではなく、現計画だと、各施策と具体的な取組の記載の粒度が揃っていない箇所があったため、階層を揃えるために修正するもの。

<彦坂委員>

- 可能かどうかということはあるが、コーちゃんバスは現在月曜日から金曜日の運行であるが、例えばおいでん祭など、土日の市内のイベントの際に、臨時運行して利用者を増やすような考えはないか。おいでん祭に限らず、中学校の部活動の地域移行の子どもたちの移動の足としても需要があるのではないか。事前予約制の利用とすることで数も把握できるし、周知も広がると考えられる。一方で、運行経費が上がってしまい、トータルの収支は悪くなる可能性もある。

<事務局>

- 「コーちゃんバス・タクシーを上手に利用する会」の中でも、例えばアメニティプラザへの土日運行を望む意見があったが、ご指摘のとおり土日にバスを走らせる費用面でのリスクもあり、いきなり実施というわけにもいかない状況である。まずはコーちゃんタクシーの拡大の中で、部活動の地域移行なども見据えて土日運行を開始するが、土日の利用者数がかかなり多くなるようであれば、コーちゃんタクシーではなく、バスの方が移動手段としてふさわしいのではないかという議論も出てくる。そうしたことも念頭に置きながら、タクシーの利用状況を追っていければと考えている。

<勾坂委員>

- 「デジタル化の推進」の個別事業の中に「GTFS データの整備・利活用」とあるが、これによって具体的にどのようなことが可能になるのか。

<事務局>

- GTFS データを整備することで、現在もナビタイムや Yahoo 乗換検索、グーグル、ジョルダンなど、ネットで時刻表などを検索することができる。今後のコーちゃんバスのダイヤ改正の際に、タイムリーにデータを更新することが一つ、それ以外にもバスの位置情報や運行状況が分かる仕組みなどを今後検証していきたい。

<座長>

- コミュニティバスのイベント等の特定日の臨時運行に関しては、豊橋市でも豊橋祭りなどで例があり、ある程度需要が見込めるかどうかということと、公共交通会議の場で事前に特定日に運行することの承認を得る必要があるが、仕組みとしては可能と思われる。まずはコーちゃんタクシーの土日の利用状況・需要をみていただくのがよろしいかと思われる。
- 体系図については、階層などよく整理されているが、2-3 の他分野についてはまとめすぎている印象がある。福祉と教育、商業と観光の話は分けて考えるのも一案。
- 成果指標の内容についてはそれぞれの目標値をどう設定するかがポイント。現行計画の評価で、個別事業でほとんど○がついているのに、成果指標で×が付いてしまうと、厳しく言うと、やることはやったけど効果が無いことをやっていたという評価になってしまいかねない。かといって現在の成果指標である 70 歳以上の市民の公共交通に対する満足度 67%が現実的な数値なのかそこ

は再考しないといけない。少なくとも今年度の評価に関して、昨年度よりも満足度が下がっているのは問題があり、見直さなければいけない。コーちゃんタクシーの拡充により、満足度が今後上がっていく期待もあるが、北部地区や白須賀地区の方は満足していないことが明らかになったところなので、次の計画の中でも何を個別事業としてやったら全体の成果指標に結び付くのかを考えていただけたら。そういう意味でも、全体と非運転者の両方の満足度を見ていただくのは賛成だが、目標値の数字を現実的な設定にすることが重要。

<座長>

- 協議事項（１）「湖西市地域公共交通計画（現計画）の進捗管理について」のご承認をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

<一同>

- 異議なし

<座長>

- ご異議ございませんので、承認とさせていただきます。また、討議事項の改定に対する意見については、事務局におかれては、今後の作業に反映していただくようお願いします。

（２）湖西市企業シャトル BaaS 事業について

<事務局>

- 資料説明（資料３）

<平岩委員>

- 事務的な確認であるが、豊橋市も運行区間となっているため、今後豊橋市の公共交通会議でも協議ないし報告した上で支局へ報告いただけるものか。

<事務局>

- 昨年度までの実証実験においても豊橋市の会議で承認をいただいていたので同様に対応させていただきます。

<彦坂委員>

- チケットの販売場所について、可能であれば市役所の１階の受付で買えるようにしてもらえないか。高齢の方が多いので２階の都市計画課まで上がるのが大変だと思う。

<事務局>

- 運用で対応できると思う。例えば受付の人に電話で呼んでもらって、都市計画課の職員がチケットを持ってお金を回収しに行くなど。

<彦坂委員>

- それもあるが、人を待たずとも、せっかく窓口が沢山あるので、どこでも買えるようにしていただけるようになるといい。可能であれば検討してほしい。

<座長>

- チケットの買える場所が利用に対するハードルになっている可能性も少しあるのかと思う。他方、本来であればデジタルチケットの販売が進めばいいが、利用者層とうまく結びついていないのが現状。
- バス停の土地の問題などは引き続き検討していただくとして、固定的に使っていただく方が豊橋

市の方ばかりなのは湖西市の事業としては少し問題だと思うので、湖西市の利用の可能性のある方たちに対して周知をしっかりとやったほうがいい。

<事務局>

- 湖西市民の継続的な利用に関しては、これまでは実証実験として期間限定での実証ということもあり、日常生活の足として使えるのか使えないのか不安に思う方もいたと思うので、通年で運行しながら継続的な周知につなげていきたい。また販売チャネルが利用の妨げになっている可能性があるので、例えば市の Logo フォームで申請して、市役所まで来なくても買える仕組みであったり、物理的な販売場所を増やすことなども継続してやっていきたい。

<座長>

- 事務的な負担は増えるが、路線沿いで買える場所が増えるといいと思う。

<座長>

- 協議事項(2)「湖西市企業シャトル BaaS 事業について」のご承認をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

<一同>

- 異議なし

<座長>

- ご異議ございませんので、承認とさせていただきます。

(3) 遠鉄タクシー(株)浜松南営業所湖西車庫の乗合事業車庫収容能力の拡大について

<服部委員>

- 資料説明(資料4)

<座長>

- ちなみにどのような事故が発生したのか。

<服部委員>

- 一般乗用の事業において、8月にいわゆる車内事故が2件発生した。1件は、走行中に前方の車両が停車し、その発見が遅れ、ブレーキを強く踏んだところ、車内が揺れ、その後乗客から首を痛めた旨の申出があったもの。もう1件については、乗客が乗降する際に、車がスリープして前へ進み、スライドドア部分と乗客が接触して転倒したもの。当然のことながら、今後事故防止についてもしっかりと対応させていただく。

<座長>

- 引き続き、安全運行をお願いできればと思う。

<座長>

- 協議事項(3)「遠鉄タクシー(株)浜松南営業所湖西車庫の乗合事業車庫収容能力の拡大について」のご承認をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

<一同>

- 異議なし

<座長>

- ご異議ございませんので、承認とさせていただきます。

4 報告事項

(1) コーちゃんタクシーの実証運行前の共有について

<事務局>

- 資料説明（資料5）

<座長>

- 利用者一人当たりにかかる市の負担額について、現状の計画の成果指標での同項目では、コーちゃんタクシーの方が費用全体の割合として大きく、未達の状況であり、かつ昨年度実績よりも今年度実績の方がコーちゃんタクシーの負担額は減っている状況かと思うが、負担額の増加について目標として妥当なのか。今まで運行していなかった時間に運行することで非効率的になるのは分かるが、検証する想定値や基準値としてどうなのかと思ったところ。

<事務局>

- 目標というとそうかもしれないが、あくまで想定でいうと、サービス拡充に伴い、1運行あたりの運行経費の単価が上がることは変えることはできず、延べ利用者数を1万5千人とし、乗合率を維持した想定で試算すると必然的にお示しした数字が出てくるというもの。収支を改善していくには乗合率を上げるほかないので、まずは利用の母数を増やす、一人の人に何回も使ってもらっただけでなく、実利用者を増やしていくことが必要。これまでも利用者が増えてきたことで乗り合い率が1.4まで高まってきたので引き続き周知に力を入れていきたい。

<座長>

- 今回の実証実験の想定値としては理解したが、この状況を踏まえて次期計画の目標値を上げるのか、湖西市として公共交通に費やすお金を増やすという方針を掲げるのか、それとも抑える方針で目標を設定するのか、どちらかという計画の方の目標値の設定に影響を与えるのではないか気になったのでご検討いただければ。

5 閉会

<事務局>

- 以上をもって、令和7年度第2回湖西市地域公共交通会議を終了とします。

以上